

# 16世紀の地震によって発生した継体天皇陵前方後円墳(今城塚古墳)に認められる地すべりについて

大阪支店 技術部 守隨治雄 他

## ○キーワード

古墳、都市、大規模盛土、慶長伏見地震、兵庫県南部地震

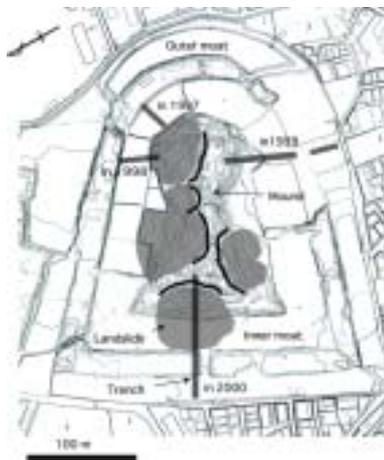
## ○概要

今城塚古墳は、古墳における地すべり現象がきちんと記載された最初の例である。変位マーカーより、逆傾斜するすべり面や内堀に引き落とされた現象など、ユニークなメカニズムが明らかになった。また、兵庫県南部地震の直近の地震であった慶長伏見地震の激しさを今に伝えている。断層の近くの強震域では、相当嚴重に作られた盛土といえども、崩壊を免れ得ないことが示された。このことは盛土の補強が必要であることを示している。

## ○技術ポイント

- 1) 古墳は、重要な文化遺産であると同時に、最も地殻変動の著しい地域に長期間存在した大規模な盛土の記録としての意味がある。
- 2) 古墳の斜面にはよく見ると多くの地すべりの痕跡が存在する。これらの地すべりは古墳が経験した地震活動の記録として重要である。
- 3) 古墳には、変位マーカーとして有効な築造時の構造が残っているため、地すべりのメカニズムの推定が容易である。
- 4) 古墳の多くは、現在では都市域に存在する。したがって古墳における地すべりの記載は、単に文化財保護の意味だけでなく、現在の都市域に存在する多くの大規模盛土の将来を暗示するものである。

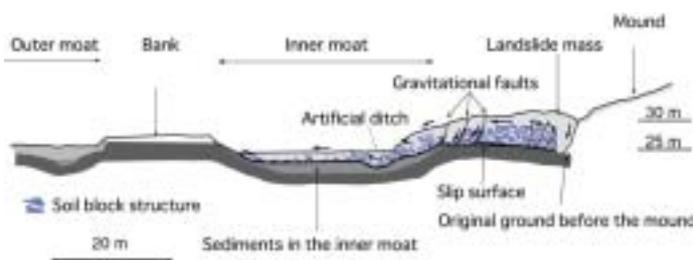
## ○図・表・写真等



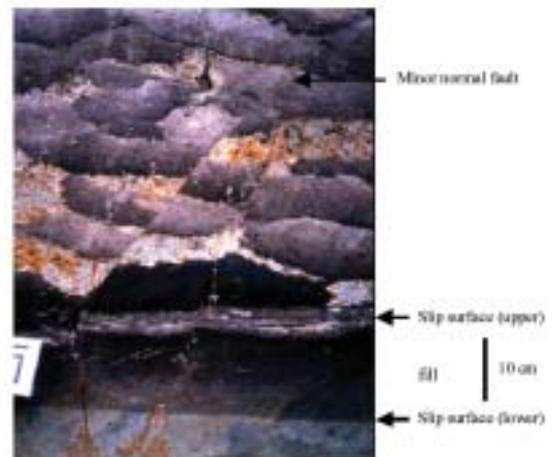
今城塚古墳における地すべりブロックの分布



2000年に掘ったトレンチ全景写真



2000年に掘ったトレンチ(右上図)位置の変位マーカー断面図



トレンチ内の地すべり面状況写真